

平成20年

12月号

園だより

にんにくじきゅう
忍辱持久

苦しくても、
がまんして続けていこう。

今月の予定

12月の行事予定							
日	曜	活動内容	保育	体操教室			給食
				長	中	少	
1	月	おさらい会予行1部・写真	一日				
2	火	おさらい会予行2部・写真	一日				○
3	水		半日				
4	木	おさらい会予行3部・写真	一日				○
5	金	避難訓練	一日	○			○
8	月	13日の振り替え	休園				
9	火		一日		○		○
10	水		一日				
11	木		一日				○
12	金	行事前半日保育	半日				
13	土	おさらい会 1・2部	半日				
14	日	おさらい会 3部	半日				
15	月	14日の振り替え	休園				
16	火	成道会	一日				○
17	水	おもちつき大会	一日				○
18	木		一日				○
19	金	12月生れのお誕生会	半日	○			
		学期末半日保育					
		保護者の会による園舎清掃日					
22	月	終業式	半日				

1月初めの行事予定							
8	木	始業式 バザー品収集	半日				
9	金	バザー品収集	一日	○			○
12	月	成人の日	休日				
13	火		一日		○		○
14	水	年長組インターナショナルプール・参観	一日				
15	木	年中組お茶のお作法	一日				○
		おやおや講座					

今月の保育

単元	保育のねらい	主な活動	予想される子どもの状態と対応
年長組	・寒さに負けず、戸外で思いっきり体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・2学期の終わりを知り、冬休みやお正月に期待を持って、身の回りをきれいにしようとする。	「子どもは風の子、元気な子！」	おさらい会には、意欲的。そんな中でも、子どもは、友だちと時間を大切に思い、遊びに余念がありません。意気投合して気前よく譲るかと思えば、トラブルも日常茶飯事です。でも、このコミュニケーション体験が、良い係わり術を育む唯一の方法です。お母さんも、先生も、学校と一緒にいかないので、おさらい会活動でも、遊びでも、前向きに友だちを応援し、自分も精一杯頑張る子になれるよう、子ども自身の力を伸ばしましょう。
		「よいお年を！」	
年中組	・クラスのみんなで一つのことに取り組み、喜びを味わう。 ・冬休みを楽しみにしながら、年末の行事に期待をもつ。	「みんなのニンジンパワーを合わせよう」	おさらい会の舞踊劇や合奏に向かいながら、「恥ずかしがりやのにんじん」を抜いたり洗ったり食べたりすることで、「ぼくたちは恥ずかしがりやじゃないもん!」とにんじんパワーをもらっています。感じたり自信がついたり表現できることが、友だちとの生活や体験活動からも育まれています。多少はがゆいと思うことがあっても、失敗を恐れず表現することに、前向きな温かい言葉をかけましょう。
		「おもちつき!」「大そうじ!」	
年少組	・クラスのお友だちと一緒に、一つのことに取り組む楽しさを味わう。 ・お餅つきや大掃除など、年末の行事を知り、はりきって参加する。	「みんなで一緒におさらい会」 ～仲良しパワーで頑張るぞ!～	登園と同時に遊びはじめ、なんとなくお互いの気心なども分かってきているようです。また、関わり方も性格などが現れています。時には、リードする子、従う子の様子も見られますが、体験しながらコミュニケーションを学んでいる過程なのです。善悪、限度を気づくように、よく観察してから受け止めてあげましょう。のべつ心配して「だめよ!」「遊ぶのをやめなさい!」では、相手の気持ちを学べないばかりか、遊ばなくなってしまいます。
		「もうすぐ、お正月」	

さようなら

2008年



人間みんな同点

世の中なんでも数字で表したがりです。テストの点数、偏差値、物価指数、体脂肪率、カロリーなどなど。そこで自己採点。算数・国語・体育・理科・音楽…。体力・機敏性・耐久性…。記憶力・理解力・思考力・企画力…。思いやり・やさしさ…などなど人間の能力を測る基準は無数にあります。さあ、自己採点が終わったら全部合計してみます。そうしたら、みんな同点になるんです。それが人間です。

【吉岡たすくさんの子育て講演より抜粋】

こんにちは

2009年



成長のてんこ盛り

いよいよ12月。師走となって、大人はなんとなく気ぜわしくなります。幼稚園では、子どもたちがおさらい会に向けて余念がありません。



おさらい会では、運動会とはまた別な、子どもたちの成長した姿を目にすることができ、今から楽しみです。

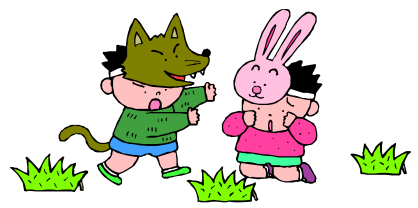
先日の予行では、お菓子を運ぶシーンで、それはそれは見事な立ち居振る舞いを見せてもらいました。普段は決して見ることのできない起居・歩き方でお菓子を運ぶのです。それを見て、はっと気づきました。これは、お茶のおけいこのたまものだと・・・。

子どもが小さいとき、大きなカブという絵本が好きでよく読んでいました。特に、カブを抜こうとする掛け声の「うんとこしょ、どっこいしょ。」というリズムが好きだったようで、その場面になると、「うんとこしょ、どっこいしょ。」とテンションが最高潮に達するのです。

実は、絵本が好きだったのではなく、そのリズムよいことばを言いたいために、大きなカブを読んでいたのかもしれない。

秋たんけんで、幼稚園の子どもたちは、本当の「うんとこしょ、どっこいしょ。」を畑でやってきました。おさらい会のプログラムの中に、そんなシーンがあったら子どもたちは迫真の演技ができることでしょうか。体験は宝物です。体験したことで想像力がさらにふくらみ、表現力が豊かに育っていくのですから・・・。

おさらい会というと、昔の学芸会のように、それに向けて練習を重ねて本番を迎えるように思いますが、練習の成果だけではなく、随所に普段の保育の成果と子どもたちの成長の証しを見ることが出来る場です。ぜひそんな視点でもご覧いただければ幸いです。



今月のお話は、昨年12月のお話を再掲させていただきました。